

9月2日（金） 知事会見

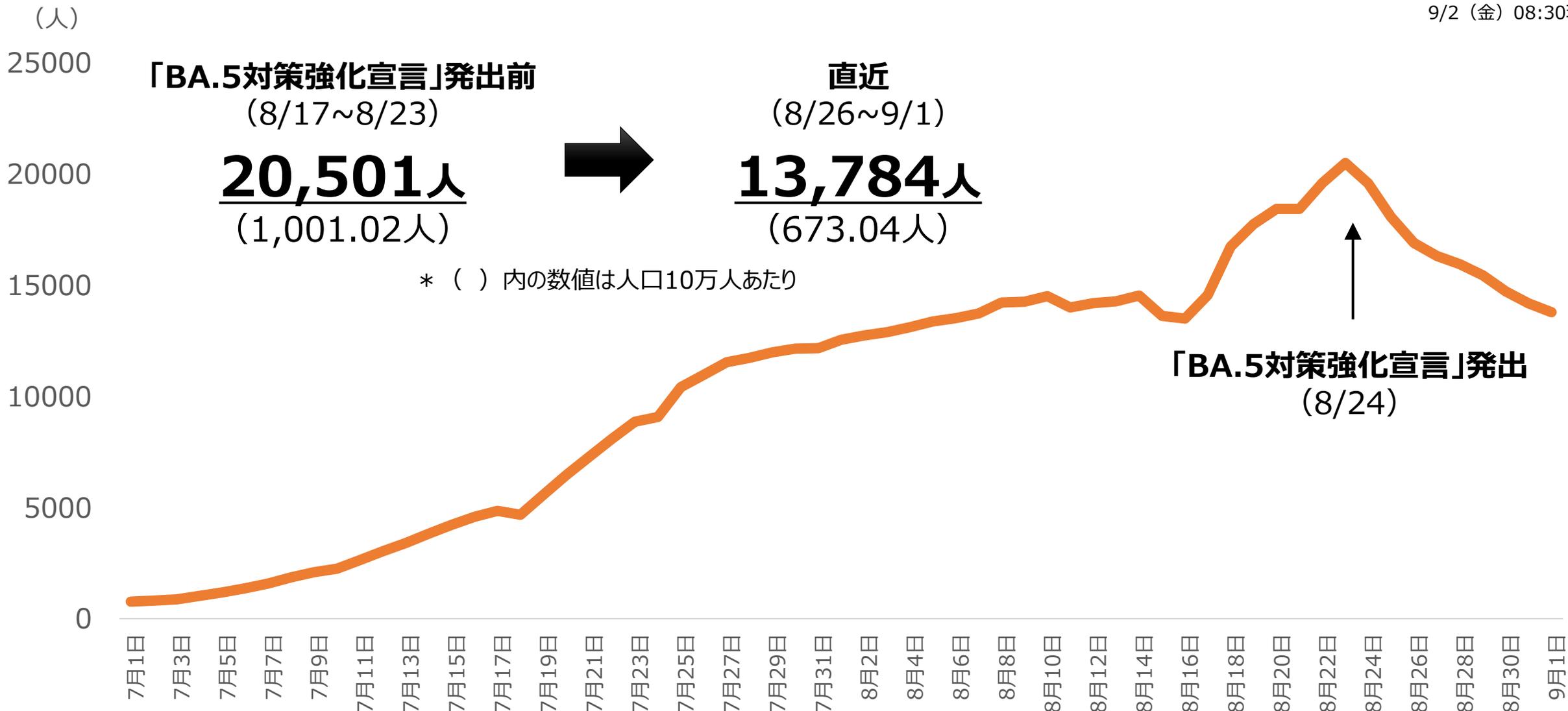
- 1 「BA.5対策強化宣言」を終了し、
「医療非常事態宣言」を継続します
- 2 発生届の限定（緊急避難措置）に係る県の対応

- 1 「BA.5対策強化宣言」を終了し、「医療非常事態宣言」を継続します**
- 2 発生届の限定（緊急避難措置）に係る県の対応

直近1週間の新規陽性者数の推移 (R4.7~)

一時2万人を超えていた陽性者数は、直近では1万4千人弱まで減少しているが、依然として高水準

9/2 (金) 08:30現在

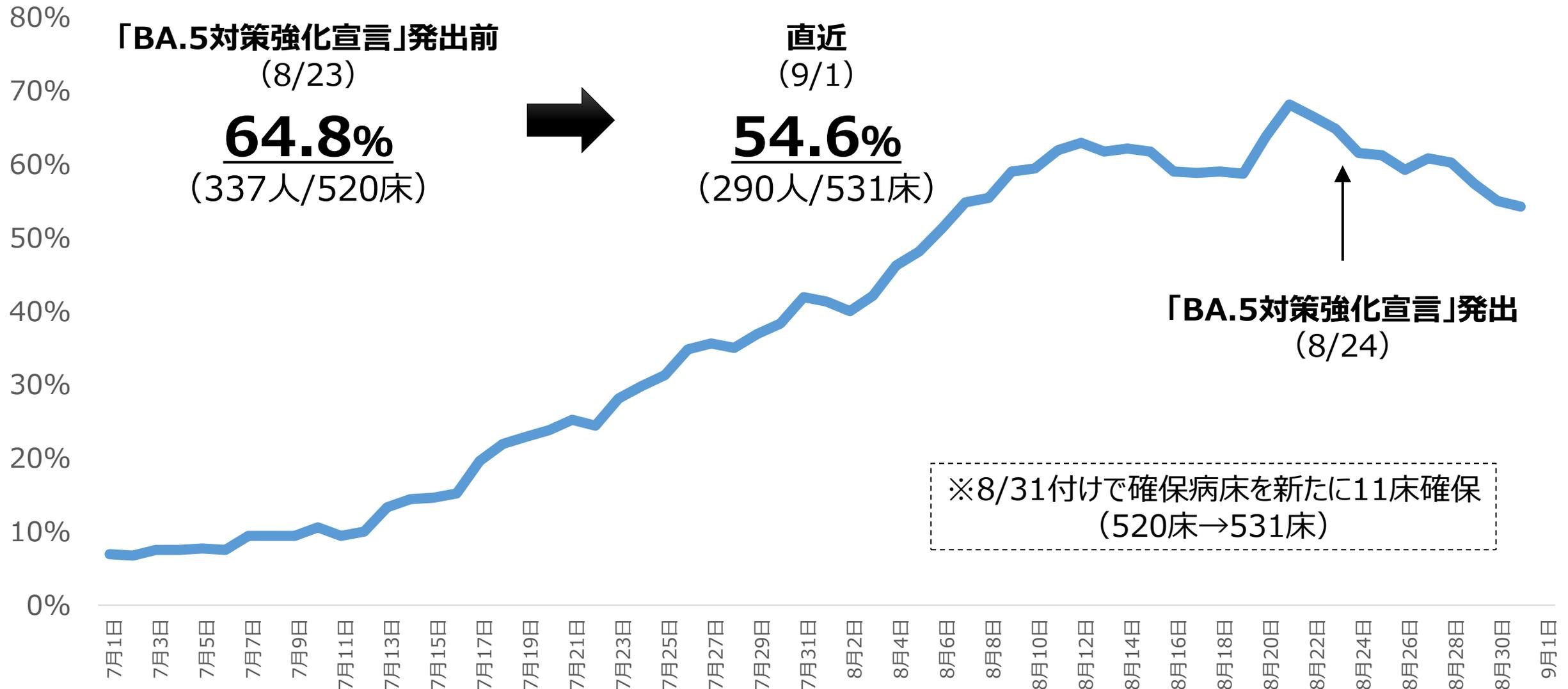


* 新規陽性者数は発生届受理日ベース 3

確保病床使用率の推移 (R4.7~)

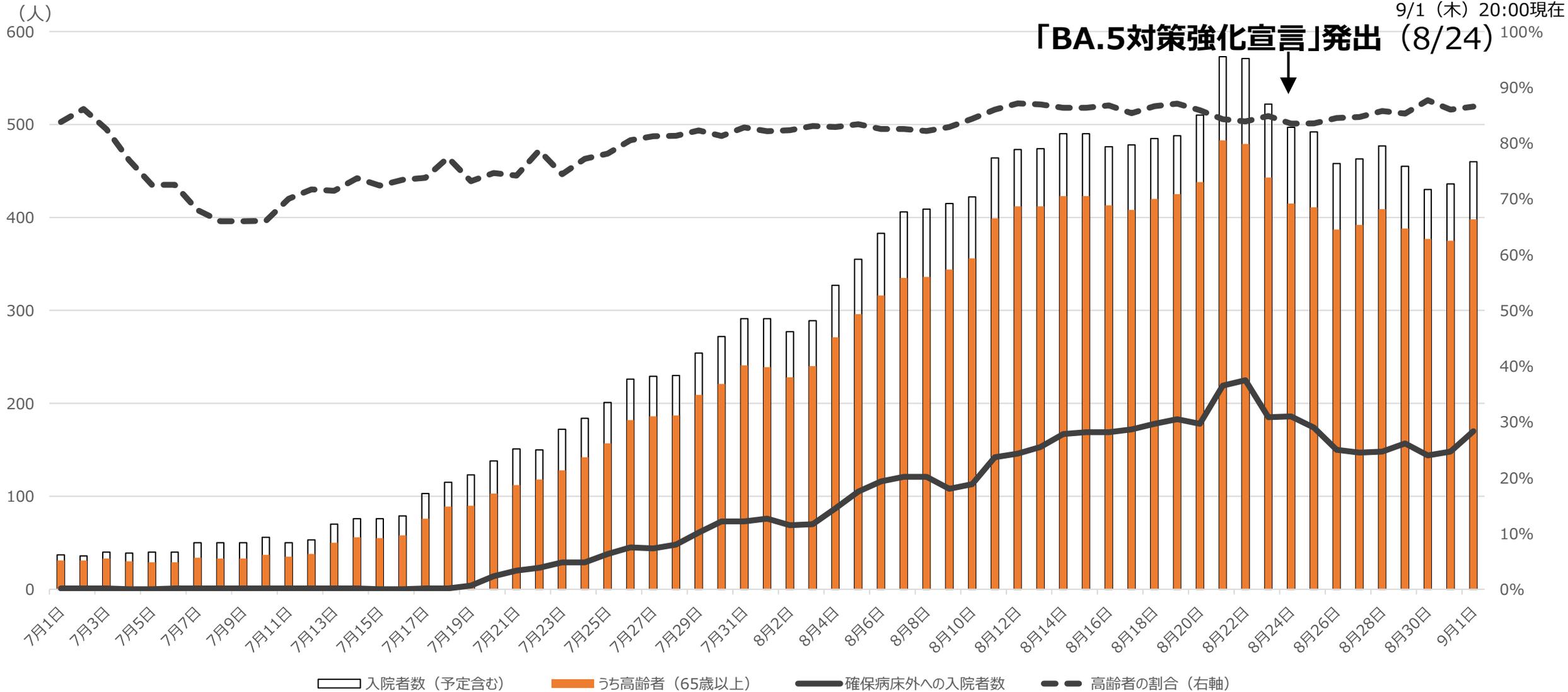
病床使用率は減少傾向に転じているが、医療非常事態宣言の発出目安である50%を超える水準で推移

9/1 (木) 20:00現在



入院者の状況

確保病床外の入院者数も減少傾向となっているが、昨日時点で170人と未だ多くの方が入院

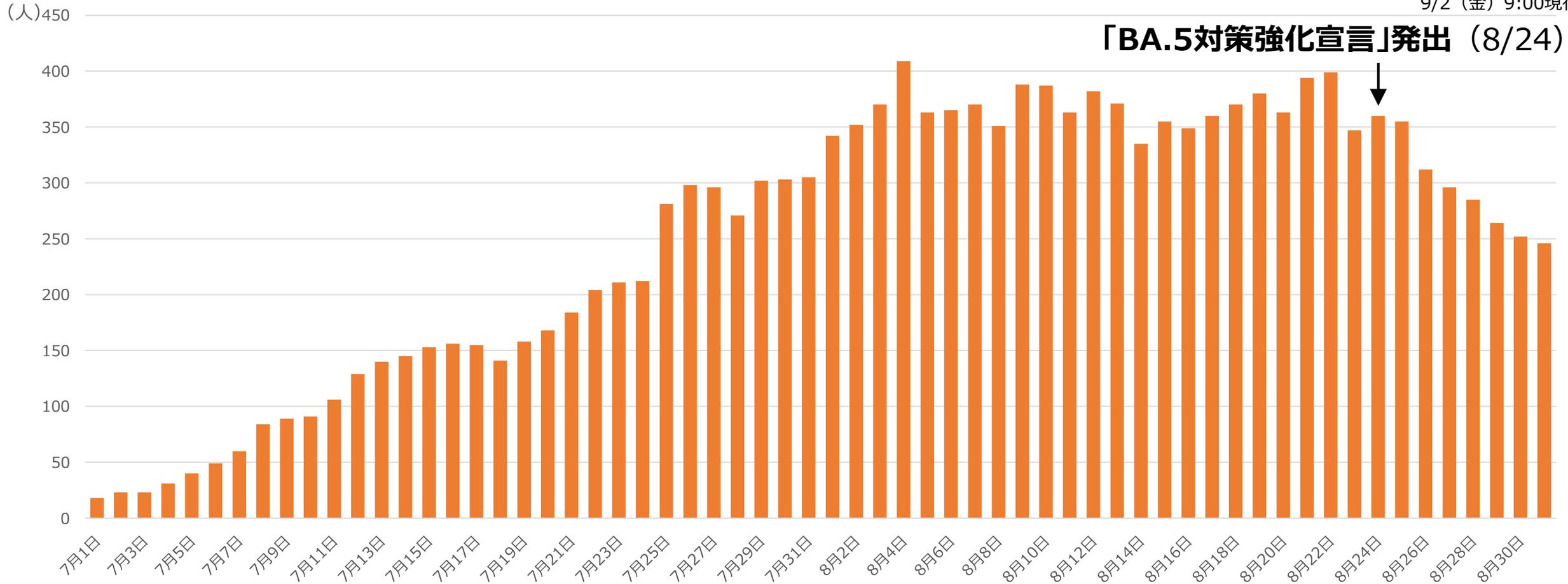


医療従事者の欠勤状況

医療従事者の欠勤は引き続き発生しているものの減少傾向に

9/2（金）9:00現在

「BA.5対策強化宣言」発出（8/24）



※G-MISにより病院から報告のあった数値を集計

■ コロナ関連で欠勤している職員数（医師、看護職員）

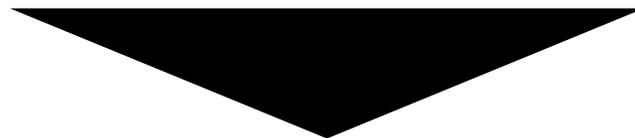
※直近1週間程度は追加報告等による変動があるため、暫定値

※コロナ関連で欠勤している職員数：本人・家族が感染、疑い患者、濃厚接触者であることに加え、コロナに関連した学校の休校等による家族の世話などを理由に休んでいる医師や看護職員の人数

専門家懇談会における主な意見

- 相対的に陽性者が多い状況は継続しているが、現場感覚としてはピークを越えたと考える。
- 現時点で、今後、新規陽性者が大きく増加する懸念材料は特段ない。
- 医療非常事態宣言が継続するのであれば、BA.5対策強化宣言は終了でよい。
- 退院や転院は以前よりスムーズになり、対策の効果は出ている。
- 危機的な状況は回避できたが、対策や呼びかけについては継続が必要。

「BA.5対策強化宣言」発出時に目標に掲げた
「確保病床使用率と新規陽性者数を減少に転じさせる」ことを達成



「BA.5対策強化宣言」は
予定どおり9月4日をもって終了します

一方、医療提供体制の危機的な状況は回避できたものの、

- **医療提供体制には大きな負荷**がかかっている
 - ・確保病床使用率は依然として高水準であるほか、確保病床以外にも昨日時点で170人が入院
 - ・医療機関・高齢者施設における集団的な感染も継続して発生
- **秋の行楽シーズン到来の影響**による感染の再拡大に警戒が必要



「医療非常事態宣言」は継続します

目標
(継続)

- ① **県民の皆様の命を守るため、**
 - 確保病床使用率を50%未満に引き下げる
 - 外来診療の負荷をできるだけ抑える
- ② **暮らしと経済をできるだけ維持するため、**
 - 社会経済活動への影響を最小限とする

「医療非常事態宣言」 継続にあたってのお願い (9月5日以降)

令和4年9月2日

- ◆確保病床使用率と新規陽性者数を減少に転じさせることができたため、「B A . 5 対策強化宣言」は予定どおり9月4日で終了します。
- ◆一方、医療提供体制の危機的な状況は回避できたものの、
 - ・確保病床使用率は依然として高水準で、確保病床以外にも多くの方が入院
 - ・医療機関・高齢者施設における集団的感染も継続して発生しており、**医療提供体制には大きな負荷**がかかっています。
- ◆加えて、秋の行楽シーズン到来の影響による感染の再拡大に警戒が必要な状況です。
- ◆このため、**「医療非常事態宣言」は継続**します。
- ◆医療提供体制の負荷の軽減に向け、引き続き県民の皆様のご協力をお願いいたします。

1 「入院患者を増やさない」 ことにご協力ください

- 重症化リスクが高い方及びその同居者・身近で接する方は、マスクを外しての会話や換気が不十分な場所等、感染リスクが高い場面・場所をできるだけ避けてください。
- 重症化リスクが高い方は4回目までのワクチン接種を、同居のご家族は3回目までのワクチン接種の積極的検討をお願いします。

2 「外来診療の負担軽減」にご協力ください

- 重症化リスクが低い方も感染リスクが高い場面をできるだけ避け、感染しない、させないよう、改めて基本に立ち返り、感染防止対策の徹底をお願いします。また、軽症の場合にはあわてて医療機関を受診しないでください。
- 20～40代の方は、若年軽症者登録センターを積極的に活用してください。
- 医療機関を受診する場合にもできるだけ検査キットで自己検査をお願いします。
- 休日夜間の受診はできるだけ控えてください。救急外来及び救急車の利用は、真に必要な場合としてください。
- 重症化リスクが低い方も感染拡大防止の観点からワクチン接種の検討をお願いします。

3 事業者の皆様へのお願い

- 事業所においては、休みやすい環境づくりやリモートワークの活用など、感染拡大防止にご協力をお願いします。
- イベントの開催にあたっては、人と人との間隔の確保、屋内での換気、飲食を伴う場合は飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策を行うことなどの感染対策を改めて徹底してください。なお、十分な対策が困難な場合には、開催内容等の再検討をお願いします。
- 陰性証明等（陽性者の職場復帰の際、または新たに療養を開始する際の検査結果を証明する書類）を従業員に求めないよう
お願いします。

1 「BA.5対策強化宣言」を終了し、「医療非常事態宣言」を継続します

2 発生届の限定（緊急避難措置）に係る県の対応

発生届の限定（緊急避難措置）に係る県の対応

- 本県においては、医療機関の状況によりHER-SYSの入力を保健所が実施している場合もあり、他県に比べ医療への負荷は大きくない
- 依然として医療機関への負荷が続く中、負担をさらに高める恐れがある**
 - ・発生届対象外の方への対応など
- 全国一律での見直し時に、再度業務の見直しを行う必要が生じる

現時点では措置の適用申請を行わない

※ 今後、全国一律での見直しが実施された際に円滑に移行するための準備を進める

◆緊急避難措置の概要

地域の実情に応じ都道府県単位で緊急避難措置として、発生届の対象を次の方へ限定することが可能

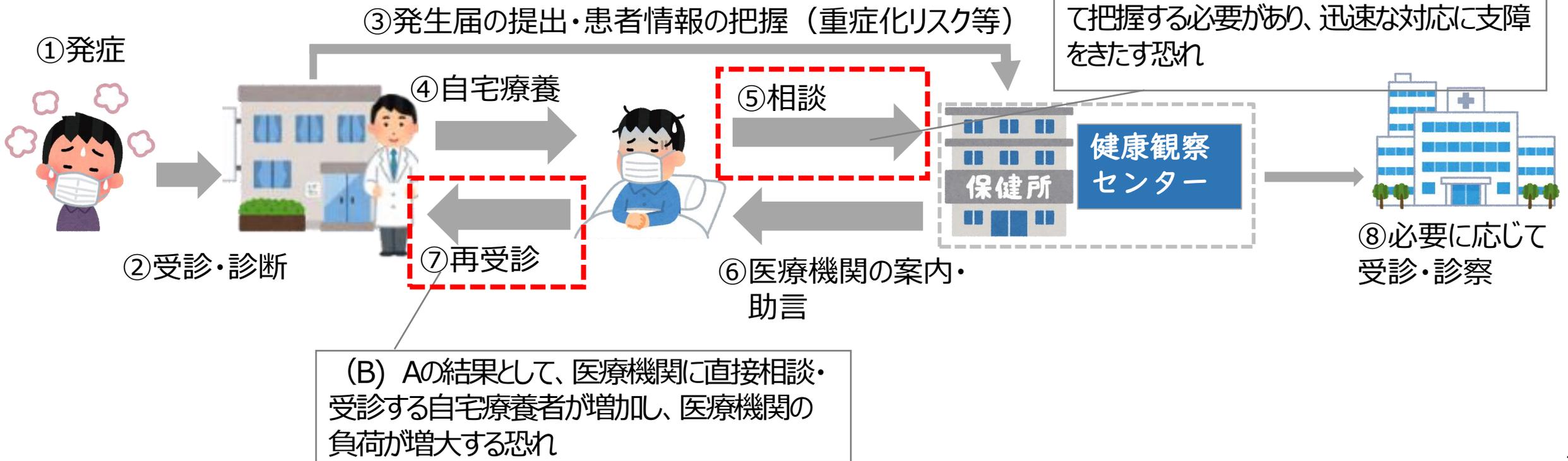
- ・65歳以上の方
- ・入院が必要な方
- ・重症化リスクがありかつコロナ治療薬や酸素投与を必要と医師が判断する方
- ・妊婦の方

※限定後、発生届の提出が必要な方は、7～8割程度減少することが見込まれる

発生届を限定した際の医療機関への影響

発生届のない自宅療養者から保健所・健康観察センターに相談があっても、患者情報を改めて確認する必要があることから迅速な対応が困難になり、基礎疾患等の情報のある医療機関への再受診の案内や、医療機関に直接相談・受診する自宅療養者が増加することで、結果として医療機関の負荷が増大する恐れ

現在の自宅療養者への対応例



専門家懇談会等の意見

8月30日（火）開催の専門家懇談会における主な意見

- 医療機関にかなり影響が及ぶので、早急に切り替えるのは難しい。
- 緊急避難的対応には慎重論の意見がある。かえって業務負担が増加し、現場が混乱する。
- 将来的な変更は賛成だが、現段階での変更は理解を得にくい。
- すぐにやると混乱して無理だという医師が多いと思う。
- 今のままだと一番混乱するのは医療現場。
- 今の患者数ではなく、もう少し減った段階の方が医療現場としては取り組みやすい。医療機関と保健所の現在のバランスが崩れることが心配。

- 長野市、松本市、長野県医師会とも見直しを行わないことで意見が一致

新型コロナと診断され、自宅療養する皆様へのお願い

- 新型コロナと診断されると、とてもご不安になると思われませんが、
ほとんどの方は軽症のまま自宅で療養を終えられています
- 診断時に医療機関から配布されるチラシには、療養期間や自宅療養における留意点など、皆様のご不安にお応えする内容を記載しております
ので、是非ご確認ください